

岩手県の三陸沿岸地域における 「関係人口」の増加に向けたロードマップ 概要版

「平成29年度岩手三陸地域における関係人口の増加に向けた調査業務」報告書 概要版

2018年3月

復興庁岩手復興局

目次

調査の背景	2
調査の目的・方法	3
課題解決方策の分析	4
成功モデル創出のためのサポートの検討	5
次年度以降の取組について	6
次年度必要な取組	7
次年度以降の取組のロードマップ	8
(ご参考)事例調査概要	9

本調査業務は、みずほ総合研究所(株)への委託事業として実施されました。

調査の背景

- ◆震災から7年が経過しボランティア・観光客が減少する一方、交通インフラ整備や多数のイベントが間近
- ◆域外の人々との新たな関係性構築の絶好の機会に、未来に向けて地域活性化の取組を具現化する必要

【調査の背景】

- 被災地は、震災以前から人口減少や高齢化、産業の空洞化等、日本全国の地域社会が抱える課題が特に顕著であった。震災後の2012年12月26日（安倍内閣初閣議）に閣議決定された「基本方針」では、震災復興は原状復帰にとどまらせず、こうした課題を解決し、創造と可能性の地として「新しい東北」を創造していく必要があるとの認識が示されている。
- 地震と津波で甚大な被害を受けた岩手三陸沿岸においては、震災発生当初、他地域の自治体・企業の応援職員や民間ボランティア等多数の人々が地域に入り込んで復興に深く関与してきた。このような人々のなかには、復興支援の活動後も何らかの形で被災地・被災者との関係性を維持し、いわゆる「関係人口」として地域づくりや観光の担い手として活動している者が存在しており、地域にとって重要な役割を果たしている状況である。
- しかしながら、震災から7年が経過し、震災の記憶が風化しつつあるなか、震災発生当初に見られたような形での関係性を持つとする人は減少傾向にある。岩手三陸地域は以前より景勝地として知られており、観光客が多数訪れる地域であるが、ここ数年は観光客数も減少傾向となっている。
- 一方で、2018年6月22日に宮古と室蘭を結ぶシルバーフェリーの就航、2019年3月にJR山田線の宮古～釜石間が三陸鉄道へ移管、全線開通、2019年6月～9月の三陸防災復興プロジェクト2019、2019年9月～10月のラグビーワールドカップ2019の開催、2020年度の三陸沿岸道路全線開通、陸前高田市における震災津波伝承施設（仮称）設置等、岩手三陸地域では多数の大きなイベントが間近に控えている状況である。このようなイベントでは多数の来訪者が見込まれており、域外の人々との新たな関係性を作る絶好の機会と捉えることができる。
- 震災復興から「新しい岩手三陸」地域の創造に向けて軸足を移すタイミングに差し掛かっているこの時期に、岩手三陸地域の「関係人口」の増加に向けた調査分析を行うことで、今後の地域の活性化に向けた取組を再検討し、未来に向けて取組を具現化していく必要があろう。

調査の目的・方法

◆調査の目的

- 民間の観光事業者では手の届かない民泊、農漁業等の産業体験、研修学習等、NPO団体、地域団体等(以下「NPO等」)が行う誘客活動の促進にスポットを当て、以下の点について調査・分析、普及・展開、提案を行うことを目的とする
 - ✓ 岩手三陸地域におけるNPO等が行っている誘客活動の調査・分析
 - ✓ 2018年度以降の岩手三陸地域における誘客に向けた取組の方向性、具体的な取組内容、中期的な目標についての提案

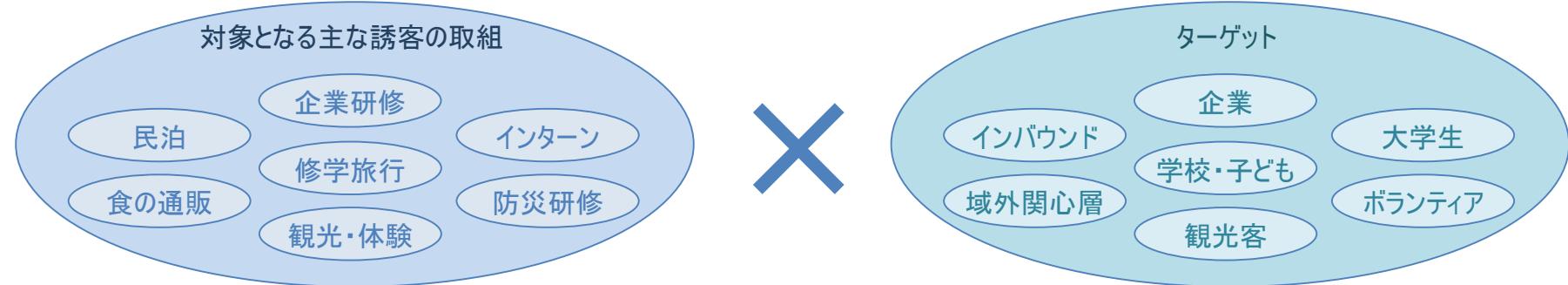
◆調査方法

- 事例調査(文献、ヒアリング)

【事例調査概要】

- ✓ 対象主体: 岩手三陸地域のNPO等
- ✓ 取組内容: 「関係人口」拡大のための誘客の取組(観光事業等を行う営利団体の取組を除く)
 - ・ 単なる観光客誘致ではなく、地域や地域の人とのつながりを作ることを意識した取組が対象
 - ・ 語り部、体験等で観光類似のものであっても、地域の人との接点構築に係る取組であれば調査対象
- ✓ 誘客ターゲット: 取組内容に合わせて多彩
 - ✓ ボランティアとの接点の維持、学校・学生や企業対象、マスを対象としたものまで、幅広いターゲットへの取組を補足

【本調査の対象となるNPO等の取組イメージ】



課題解決方策の分析

◆ヒアリングで得られた「課題」と「課題解決の視点・対応策」を照らし合わせ、課題解決方策を分析

ヒアリング内容	
課題	課題解決の視点・対応策
組織運営	
• 運営ノウハウが未熟 • NPOに詳しいコンサル不足 • 効率化のためのIT活用	• 別団体での経験・ネットワーク
人材	
• 人材確保・人材育成 • リピーターは“人”に付く	• 外部協力者ネットワークの活用
資金	
• 行政による助成が不可欠 • 受託が年度毎で不安定	• クラウドファンディングの活用
情報	
• 周囲や他地域の取組情報不足 • 多様な支援制度の把握 • 未活用資源(地域資源、中間支援者等)	• 外部ネットワークの活用
需要開拓	
• 震災・防災関連コンテンツへの関心低下 • 新規需要落ち込み • 「景色」以外の差別化要素 • 潜在的利用者へのマスマーケティング	• 利用者からのフィードバック活用 • オーダーメイド、“人”を前面に出す等「その地にしかない」コンテンツの創出 • 口コミ、交流イベント
地域一体となった取組意識の醸成	
• 地域内の人とのやる気 • 地域間、地域内での意識の違い • NPO等の取組意義・効果把握	• 協力者メリットを見る化 • 地域の負担軽減(生業の活用) • 他団体連携・広域連携 • 地域の発展を第一の目的に

組織運営面(人材・資金・情報等)
● 「人材」、「資金」は各団体共通の課題
● 解決の視点(事例調査より): <ul style="list-style-type: none">✓ ネットワーク等を活用し事業運営を円滑化✓ 外部協力者の活用により組織の人材不足を補う✓ クラウドファンディングを活用

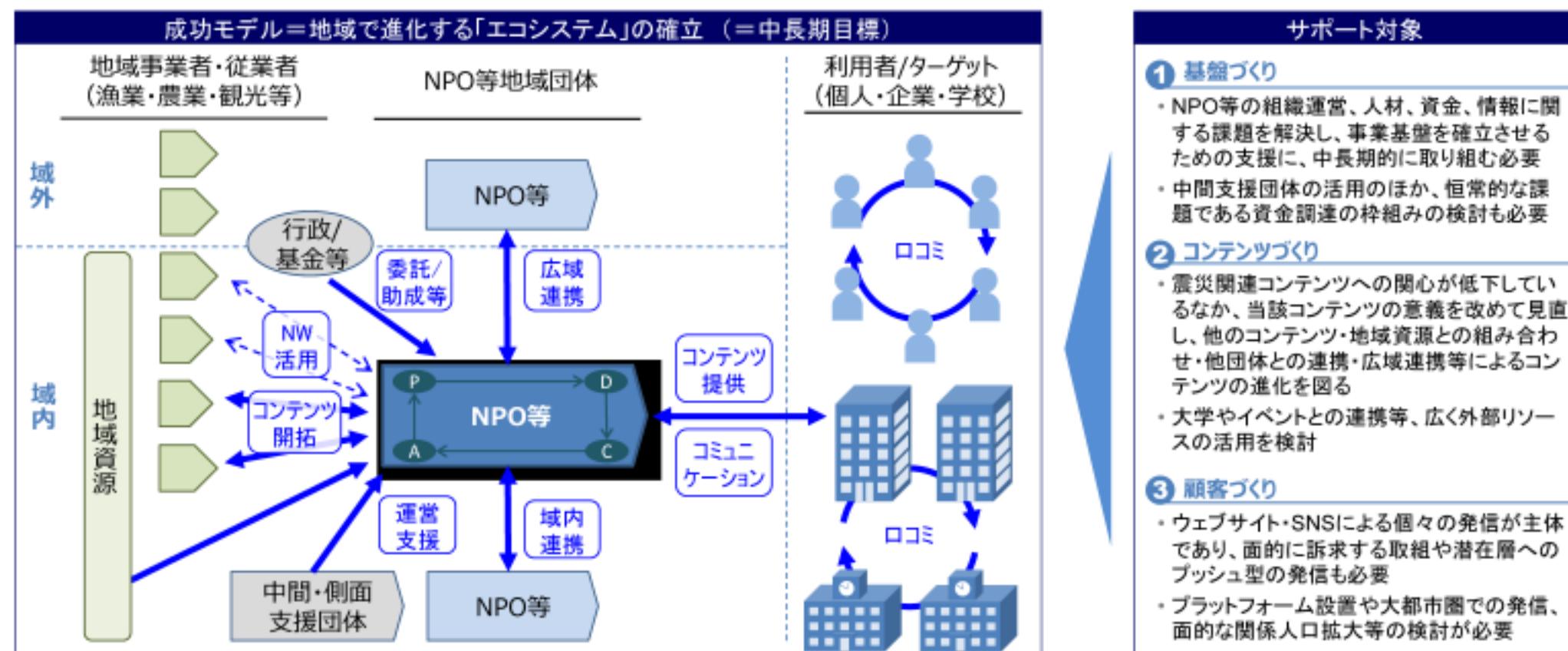
需要開拓
● 震災関連コンテンツへの関心低下が課題
● 解決の視点(事例調査より): <ul style="list-style-type: none">✓ オーダーメイド、“人”を前面に出す等「その地にしかない」コンテンツの創出✓ 震災関連コンテンツと他の観光資源との組み合わせ✓ 他団体や民間の取組との連携

地域が一体となった取組
● 地域内での意識の違いが課題
● 解決の視点(事例調査より): <ul style="list-style-type: none">✓ 生業をそのままコンテンツとして提供(漁師や農家の負担軽減)✓ 収入面等のメリットの見えるか✓ 関係人口拡大が地域の発展につながるという意識の共有

成功モデル創出のためのサポートの検討

◆成功モデル(「エコシステム」)の確立

- NPO等が他者と関係しながら、自ら進化する成功モデル(「エコシステム」)を地域として確立する必要
- 現状は各NPO等の体力等に課題があるため、各々の主体の懸け橋となる以下のサポートを行政が中心となり行う必要
 - ①基盤づくり : 中長期的なNPO等の事業の安定
 - ②コンテンツづくり: 需要開拓のためのコンテンツ内容の充実
 - ③顧客づくり : ターゲットとなる層へのアプローチの仕組みづくり



次年度以降の取組について

◆次年度以降必要な取組提案・サポート内容を検討

	取組提案・サポート内容		現状	次年度以降の取組・サポート
	区分	具体的内容		
① 地域の中核団体の活用	基盤	・人材育成、組織運営支援	・三陸DMOセンターによる人材育成事業のほか、各種団体の研修・セミナー、コンサル派遣事業等がある ・新しい東北のウェブサイトにおいて支援情報を提供	・次年度以降も取組継続
	コンテンツ	・他団体事例の情報共有、ビジネスマッチング	・いわて連携復興センターにより取組実施中	・次年度以降も取組継続
	顧客	・他地域大学とのネットワークの活用	・各NPO等においては、ボランティアで来県した学生の口コミ・SNS発信によりコンテンツ利用者を拡大 ・岩手大学と他大学との連携開始	・次年度以降も取組継続
② 複数団体の連携・ネットワーク構築	コンテンツ	・広域・大型イベントとの連携	・2019年度に「三陸防災復興プロジェクト2019」「ラグビーワールドカップ」が予定されているが、関連する誘客活動等の取組は今後検討	・交通インフラが整備され地域の注目度も向上する 2019年度に向けて取組を実施 【次年度取組の提案①】
		・広域地域資源（「三陸ジオパーク」）の活用	・三陸ジオパーク関連の取組は個々の観光事業者やNPO等が実施しているが、今後ジオパーク認定を維持するためには一体となった取組が求められている	・2019年に認定の再審査が控えており、これまでに一体的な取組を実施する必要。産学官連携によるプログラム整備を実施 【次年度取組の提案②】
③ 効率的・効果的な誘客の仕組み構築	顧客	・プラットフォーム(PF)設置・活用	・各NPO等でウェブサイト構築、SNS活用を実施 ・個々の取組にとどまる上に、更新に手が回らないケースやデータを活用できていないケースが散見	・設立間もない三陸DMOのサイト構築が今後想定されるこの機に、NPO等のコンテンツ情報集約から販売・管理・DB分析に一貫して対応できるPF設置を検討 【次年度取組の提案③】
		・地域外での交流会等	・各NPO等自身や県・いわて連携復興センターで対応中 ・復興庁の共創力イベント	・既存事業、復興庁事業を積極活用 【次年度取組の提案④】
④ インバウンドの誘客活動拡大	コンテンツ/顧客	・既存の関連事業成果の活用	・「交流拡大モデル事業」「岩手県を中心とした北東北インバウンド誘客推進調査・検討等業務」が実施されている	・事業成果を活用して防災関連国際会議等での試行・拡大等を検討 【次年度取組の提案⑤】
⑤ 資金面の検討	基盤	・コミュニティファンディング、SIB等の検討		・財源の不安定さは、各NPO等に共通する大きな課題であり、長期的な検討が必要
	コンテンツ	・クラウドファンディング活用	・多くの団体では活用経験なし ・手厚いサポートを行う地域のクラウドファンディング事業者は人材不足の状況	・地域に根差したクラウドファンディング事業者の周知・活用促進と、事業者の人材育成を並行して実施 【次年度取組の提案⑥】

次年度必要な取組

◆次年度特に必要と想定される取組は以下の6項目

① 広域・大型イベントを軸としたネットワーク構築・連携促進

- 予定される広域・大型イベント
 - ✓ 「三陸防災復興プロジェクト2019」、「ラグビーワールドカップ2019」等
 - ✓ 交通インフラ整備、地域の注目度急上昇、国内外からの来訪者急上昇が見込まれるこの機会、コンテンツ・顧客づくりを行う好機

具体的な実施事項

- ✓ 各NPO等団体のコンテンツの内容充実
- ✓ 団体同士の連携強化の取組
- ✓ 来訪者の周遊・回遊を促す広域コンテンツ開発

② 広域地域資源(三陸ジオパーク)の活用

- 「三陸ジオパーク」を軸とした連携プログラム・コンテンツ組成の検討
 - ✓ 日本最大のジオパーク。2019年の再審査に向け、地域一体となった体制・コンテンツ再構築が必要な状況
 - ✓ 地域の大学でのワークショップや面的ストーリー開発の研究等、産官学の様々な取組実績あり

具体的な実施事項

- ✓ 推進体制再構築
- ✓ 産学官の連携促進
- ✓ コンテンツ再構築

③ プラットフォームの設置・活用

- これまでの情報発信の実態
 - ✓ 個々のNPO等がバラバラにウェブサイト・SNS、チラシ配布等により情報発信を実施
 - ✓ コンテンツ開発・コーディネートと、誘客受け入れ窓口の分離により誘客効果を高める必要あり

具体的な実施事項

- ✓ プラットフォームの設置
(販売管理・データ集約・分析→戦略策定)
- ✓ 既存プラットフォームへの特集ページ掲載

④ 地域外での交流会等の開催

● 地域外での交流の維持・拡大

- ✓ 東京等大都市圏での接点づくりは関係性維持やコンテンツ利用者開拓に有効
- ✓ アイデアソンや体験イベントも加えた既存の復興庁事業は、関係性の維持拡大に加えてNPO等が新たな気づきを得られる場としても有効

具体的な実施事項

- ✓ 既存の取組(れんぶく、各NPO等)の継続
- ✓ 復興庁事業(Fw:東北Weekly等)の活用

⑤ インバウンドの誘客活動拡大

● 既存の関連事業成果

- ✓ 復興庁「交流拡大モデル事業」では、国内外の外国人誘客事業開発支援を実施。2017年度は11事業者のプログラム開発を支援
- ✓ 復興庁岩手復興局「岩手県を中心とした北東北インバウンド誘客推進調査・検討業務(2017年度)」では、コンテンツ拡充・情報発信土台構築等を実施

具体的な実施事項

- ✓ 既存事業からの知見共有・反映
- ✓ 國際会議等からの誘客試行

⑥ クラウドファンディング(CF)活用

● これまでのNPO等でのCF活用実態

- ✓ 多くの団体では活用経験ないが、コンテンツ開発資金確保の一環として一部で活用実績あり
- ✓ CF事業者側では、NPO等にアドバイス・サポートを行う人材が不足している状況

具体的な実施事項

- ✓ NPO等への周知・勉強会開催
- ✓ 協力者拡大のための広報活動
- ✓ CF事業者における人材育成

次年度以降の取組のロードマップ

◆次年度以降、以下の取組を行いつつ、中長期的に地域での「エコシステム」の確立を目指す

取組提案・サポート内容		現状	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		
区分	具体的な内容							
① 地域の中核団体の活用	基盤	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成、組織運営支援 三陸DMO等の研修・セミナー等 新しい東北ウェブサイトでの支援情報提供 	<p style="text-align: center;">現在の取組の継続</p>					
	コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 他団体事例の情報共有、ビジネスマッチング いわて連携復興センターが対応 						
	顧客	<ul style="list-style-type: none"> 他地域大学とのネットワークの活用 岩手大学と他大学との連携 						
② 複数団体の連携・ネットワーク構築	コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 広域・大型イベントとの連携 イベントの周知を実施 関連の誘客活動検討は今後 		<p style="text-align: center;">① 各NPO等のコンテンツ充実 ② 各NPO等の連携強化 ③ 広域コンテンツ開発</p>	<p style="text-align: center;">④ 三陸防災復興プロジェクト2019 ⑤ ラグビーワールドカップ ⑥ 再審査</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> 広域地域資源（「三陸ジオパーク」）の活用 三陸ジオパークに関する一體的な取組 						
③ 効率的・効果的な誘客の仕組み構築	顧客	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム(PF)設置・活用 各NPO等で対応 更新・データ活用等に課題 		<p style="text-align: center;">⑦ PF設置・情報集約 ⑧ 既存PF活用・情報集約</p>	<p style="text-align: center;">⑨ 既存の取組の継続 ⑩ 復興庁事業の活用</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> 地域外での交流会等 各NPO等、いわて連携復興センター、復興庁で対応 						
④ インバウンドの誘客活動拡大	コンテンツ/顧客	<ul style="list-style-type: none"> 既存の関連事業成果の活用 「交流拡大モデル事業」 「岩手県を中心とした北東北インバウンド誘客推進調査・検討等業務」 		<p style="text-align: center;">⑪ 既存事業知見共有 ⑫ コンテンツへの反映 ⑬ 國際会議等からの誘客</p>				
⑤ 資金面の検討	基盤	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティファンディング、SIB等の検討 		<p style="text-align: center;">長期的な検討が必要</p>				
	コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> クラウドファンディング(CF)活用 多くの団体では活用経験なし CF事業者的人材不足 		<p style="text-align: center;">⑭ NPO等への周知・勉強会 ⑮ 協力者拡大のための広報活動 ⑯ CF事業者における人材育成</p>				

地域で進化する「エコシステム」の確立（＝中長期目標）

(ご参考)事例調査概要

◆事例調査対象先と取組内容

- 近隣事例1団体を含めた計12団体に対してヒアリングを実施
- ヒアリング先のサービス・コンテンツの内容は、以下のように多岐に亘っている

ヒアリング先(五十音順)	コンテンツ開発	コーディネート	その他中間支援	側面支援
岩手大学	<ul style="list-style-type: none"> ● キャンパス設置 ● ツアー開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテンツ発信 ● 懇談・懇親会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の取組への協力 ● シンポジウム開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他大学連携 ● 政策提言
wiz		<ul style="list-style-type: none"> ● インターン仲介 	<ul style="list-style-type: none"> ● クラウドファンディング ● U・Iターン促進 	
カタリバ	<ul style="list-style-type: none"> ● コラボスクール設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア・インターン仲介 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業等連携促進 ● 資金サポート(寄附金) 	
三陸DMOセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発等支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域連携体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光人材育成 ● 観光関連データ提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域づくり支援
三陸ひとつなぎ自然学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの遊び場提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアツーリズム ● Meetup Kamaishi 		
体験村・たのはたネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテンツ発掘 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験プログラム商品化 ● 民泊仲介 		
東北開墾	<ul style="list-style-type: none"> ● 「東北食べる通信」発行 ● イベント主催 	<ul style="list-style-type: none"> ● CSAサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食べる通信モデルの全国展開 	
のんのりのだ物語	<ul style="list-style-type: none"> ● 野田村大学運営 ● コンテンツ開発支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント・ツアーコーディネート 		
根浜MIND	<ul style="list-style-type: none"> ● 特産品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● ツアー受け入れ ● スポーツを通じた交流 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災・減災への取組 ● 地域づくり 	
マルゴト陸前高田	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテンツ開発支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民泊修学旅行 ● 企業・大学研修 ● ツアー開発 		
宮古観光文化交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学ぶ防災」 ● イベント・コンテスト開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光事業者等への営業 		
MORIUMIUS(石巻市)	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験型宿泊施設運営 ● 体験プログラム実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験プログラム開発 		